
妖と陰陽師

瑠璃色

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

妖と陰陽師

【Nコード】

N3966Z

【作者名】

瑠璃色

【あらすじ】

注意

これは作者の妄想から出来てますのでクオリティが低いです。

関東大妖怪任侠一家奴良組の三代目、ぬらりひよんの孫の奴良リクオが通う学校に転校生がやってきた。

「花開院 朝日です。よろしくお願いします。」

花開院と名乗る彼女の正体とは？

京都編

再び京都にやってきた清十字怪奇探偵団。

清十字怪奇探偵団が京にはびこる悪を滅する！？

設定

設定

花開院 朝日（けいかいん あさひ） 妖怪の時 茜色 朝日（あかねいろ あさひ） 13歳

妖怪と陰陽師の娘。

見た目 黒羽丸の人間で女バーションのような感じ。和風美人だが夜になると瞳が紫色になる。妖怪の時と人間の時の外見がほぼ一緒。陰陽師として居る時は何処でも黒縁眼鏡にポニーテール。

性格 お姉さんぽい。少し抜けている所がある氷麗のサポート役。

公私きちんと分けていて、公 真面目で努力家。完璧人間。私 秀元と悪のり、からかいをしている。お茶目。

力 齢六歳にして陰陽術をきわめた努力型の天才。休日は陰陽師として一人で仕事をこなしている。誰も知らなかったが式神破軍を使える。ちなみに戸籍上では花開院 朝日となっていて真名を知っているのは奴良組、花開院のごく一部の人物のみ。

その他 奴良組には修行の合間や手が空いている時の長期休暇のときに遊びに来ていた。やることが無いので色々経験しようと世界をまわっていた。秀元と仲が良い。氷麗とも姉妹のように気が合う。奴良組の頼れる妹的存在。

付け足しがありましたら追加します。

設定（後書き）

付け足しました。

分からないところがあったらいつてください。

転校生（前書き）

本編です！

カナ視点となっています。

転校生

浮世絵町。奴良リクオの通う学校。

「今日は転校生を紹介する」

ザワツ！クラスが急に騒がしくなる。男？女？どんな子？と話している。私はチラツとリクオ君を見る。リクオ君は特に興味がないようにで班的男子の話に相槌をうつている。

「静かに！入れ」

先生は一喝した後転校生を呼ぶ。どんな子だろう？と皆、ドアを食い入るように見つめている。私もドアを見つめた。
ガララッ！入ってきたのは黒髪のと風美人な女の子。

「花開院 朝日です。よろしく願います」

花開院？じゃあこの子も陰陽師なの？

この間家のことが一段落して戻ってきたゆらちゃんの方を見る。ゆらちゃんも困惑していた。たまたま一緒の名字なだけかも。私はそう結論付けて考えるのを止めた。

お昼。屋上。

私と巻さん、鳥居さん、島君、清継君はリクオ君、及川さん、ゆらちゃん、朝日さんを追っていた。なぜならお昼になると、四人で駆けていってしまったからだ。

「どういうことや？朝日姉。うち、何も聞いてへんけど」

ゆらちゃんが朝日さんに詰め寄る。

朝日姉と呼んでいたから、やっぱり知り合いだったみたい。でもな
んでさつき困惑
していたのかな？

「え、竜二から聞いてない？」

「聞いてへん！！」

ゆらちゃんは一気にまくしたてたからかゼーハー言っている。

「朝日、久しぶり」

リクオ君が笑う。及川さんもニコツと笑う。

「久しぶり、氷麗、『総大将』！」

その言葉が意味することに気づくのは後二分後のこと。

転校生（後書き）

グダグダで申し訳ありません（-_-;）
誤字、脱字ありましたら指摘お願いします。
感想も書いていただけると嬉しいです。

> m
|
|
| m
<

朝日の秘密（前書き）

今回もカナちゃん視点です！

今回、試しに会話文と地の文を一行あけて書いてみました。
感想があつたら感想書いてくれると嬉しいです。

朝日の秘密

「じゃあ朝日も妖怪・・・なの？」

巻さんが信じられないという表情で尋ねる。私たちも妖怪についてはこの間、リクオ君と及川さんに聞いたばかりだからよく分からないけどリクオ君の事を『総大将』と呼ぶのは妖怪だけだということぐらい分かる。

「うん。そーよ」

深刻な表情で聞いたのに、朝日さんの返事は拍子抜けするぐらいあっさり、すつきりしたものだ。リクオ君と及川さんとゆらちゃんが苦笑している。

「妖怪と陰陽師のハーフなの」

重大な秘密な筈のこともばらしている。皆哑然としてみると、飄々とした宮司さんのような格好をした人がやってきた。確かゆらちゃんの式神の・・・。

「秀元、学校終わるまで待っててよー」

「えーちよつとぐらいいいやんかー。なあゆらちゃん」

秀元さんがゆらちゃんに尋ねるが、ゆらちゃんは固まっている。どうしたんだろ？そんな驚くことかな？ゆらちゃんの式神なんだからびっくりすることないのに。

「うち、破軍よんでないで」

えっ？秀元さんはゆらちゃんの式神じゃないの？それにゆらちゃんじゃなかったら誰が呼んだんだろう？清継君たちも困惑している。

「私が呼んだの。秀元はゆらだけの式神じゃないの」

『なるほど！』

皆の声が重なる。同じことを考えてたのかな？

「そろそろご飯にしない？」

リク才君の提案でご飯を食べることにした。

そして成り行きで朝日さんも清十字怪奇探偵団に入ることになった。

放課後

「週末、京都に行こう！この間は妖怪に会えなかったしね！」

『えー！！』

すごく嫌な予感がする。あの時みたいにならないといいけど・・・。

朝日の秘密（後書き）

どうでしたか？

悪い点、その他感想ありましたら感想に書いてください！

京都へ（前書き）

今回は神視点です。

京都へ

奴良組の朝は遅い。なぜなら妖怪というのはだいたい夜行型だからだ。

そんな奴良組に日の昇ったばかりの時間に身だしなみを整えている者がいた。

花開院 朝日

花開院家の陰陽師にして、奴良組の妖怪。

珍しく朝日は和服を着ていた。白い着物に藍色の袴。そして黒縁眼鏡に、ポニーテール。

なぜこんな格好をしているのかというと、朝日は陰陽師として居るときはいつもこの格好なのだ。

朝日曰く「形から入るタイプだから」らしい。

今日は京都に行く日。一人は寝れないほど心待ちに、一人は悪夢を見るほど来て欲しくなかった日。

集合場所。

「遅いじゃないか！ん？朝日さん、それは陰陽師の服なのかい？」

清継が朝日の服がいつもと違うことに気づいたようで朝日に尋ねる。

「違うよ。けどいつもこの格好だから。ほら、何事も見た目からっていうでしょ？」

清継と朝日はのんきに話していたが

「二人とも早くしないと出発しちゃうよ！」

リクオの声で二人も駅に入ってしまった。

「この間は妖怪に会えなかったけど今回こそは！」

清継はそんなことを言っているが、カナや鳥居からしたらいい迷惑だ。

だが清継がそんなことに気付くわけもなく、三者三様に京都へ思いを馳せていた・・・。

京都へ（後書き）

突然ですが朝日の妖怪の時の名前を変更させていただきます。
遷聖 茜から茜色 朝日（あかねいろ あさひ）になります。
理由は読み返していたら、名前が違うのはわかりずらいと思ったからです。

すみません（――）m

後、設定も付け足したので見てみてください。

花開院家（前書き）

ゆらちゃん視点です。

かなりエセ京都弁です・・。

作者は東京生まれで京都行ったことないです。

花開院家

花開院家

「ただいまー」

うちらを出迎えてくれたのは秋房兄ちゃんやった。

竜二兄なら絶対やってくれへんお茶と茶菓子を出すことまでやってくれた。

まったく竜二兄も秋房兄ちゃんを見習ったらどうなんや。竜二兄にゆうたら怒られそやなあ。

「ゆら、お煎餅、畳に落とさないの。気をつけて」

朝日姉も竜二兄とは大違いや。うちも人のこと言えへんけど。朝日姉はうちと同じ年やけど昔からなんでもできて優しかった。うちと二人きりになるといたずらっこみたいな表情になって、よくふざけてた。朝日姉は修行も手伝ってくれてたから、外国に行っちゃって少しさみしかつたなあ。

「ゆら、またお煎餅落としてるよ？どうしたの？ぼーっとしちゃって」

「考えごとしてただけや」

うちがそついうと曇っていた表情を明るくさせた。朝日姉は優しいが怒るとめちゃくちゃ怖いんや。にこにこ不気味なぐらい笑顔で笑い掛けられたら即死もんや。

「朝日を怒らせてはいけない」

という沈黙の了解があるほど。陰陽師としても超一流なんや。竜二兄に陰陽術の基本を教えたのも朝日らしい。

「帰ってきてたのか？」

花開院家（後書き）

区切りあまりよくなかったですね。

次回朝日のもうひとつの秘密があきらかに！？

ヒントは「朝日って身長、165cmもあるって高いよね？」と「
竜二って年下に習うかな？」です。

答えは次回のお楽しみです！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3966z/>

妖と陰陽師

2011年12月15日22時49分発行